

地震への備え(その1) ～市施設の耐震化～

市の施設の耐震化については、平成19年の春に取り上げましたが、その後の進捗状況についてご説明します。

この間、19年7月の新潟県中越沖地震、20年6月の岩手・宮城内陸地震により、大きな被害が発生しました。また同年5月には中国の四川省大地震もあり、想像を絶する被害に衝撃を受けた方も多いと思います。

地震という言葉を聞くと、平成7年1月に起きた阪神・淡路大震災のニュース映像を思い出します。橋脚が折れた高速道路、中途階が押しつぶされたビル、暗闇の中で火の海となった市街地など、被害に遭った方のことを思うと本当に胸のつぶれる思いがします。

過去、一宮市を含む太平洋側では、100年～150年の周期で大地震が起こっています。東海地震は、安政元(1854)年の安政東海地震以来150年余りの間、大地震が起きていません。地震のエネルギーが蓄積され、「いつ起きてもおかしくない」といわれているのは、皆様ご存じのとおりです。このような状況の中、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、市の所有する施設の耐震工事を行ってきました。

昭和56年以前に建設された旧耐震基準の市有建物は、平成21年4月時点で646棟でした。21年度末までに570棟の耐震診断が終了しますので、耐震診断率は88・2%となります。耐震

診断で耐震性が確認された建物と、21年度末までに耐震補強工事が完了する建物を合わせると488棟となり、耐震化率としては75・5%となる見込みです。

耐震補強工事の進捗状況を、優先順位が高い施設の順に、具体的に説明します。

保育園・小中学校

21年度中に、耐震性が確保されていない保育園すべての耐震補強工事が完了します。

小中学校は22年度中にすべての耐震補強・建て替え工事を完了する予定です。工事は授業に支障のないよう、夏休みを中心に進める予定ですが、1日も早く安全を確保したいと考えていますので、ご理解をお願いします。

市民病院

昭和28年に建設された旧第1・第2病棟を取り壊し、平成16年6月に南館に建て替えました。

現在は、昭和48年建設の本館の建て替え工事を進めており、9月末に完了する予定です。今後とも平常時での医療行為とともに、災害拠点病院として負傷者治療を担っていきます。

消防本部など

消防本部は耐震補強工事が18年3月に完了し、八幡消防分署は20年9月に建て替えました。

消防分団庁舎は毎年1分団ずつ建て

替えを進めており、今後、消防出張所も合わせて計画的に進めてまいります。

市役所

一宮庁舎の耐震性に問題があり、22年度には実施設計を終え、建て替え工事に着手する予定です。これに合わせ、尾西・木曾川庁舎の今後のあり方について、地震対策を含めた見直しを進めているところです。

以上、市の主な施設の耐震化についてご説明しました。今後も多くの方が利用する建物を優先的に、27年までに耐震化率を90%以上にすることを目標に進めていく予定です。

市民の皆様も、大きな地震が発生したときのことを今一度想定し、地震に対する備えをしていただきますようお願いいたします。このことについては、あらためて次号で述べたいと思います。



耐震補強した校舎(小信中島小学校)